

# 「災害を繰り返してはならない」「情報を甘く見るな」 何回もの現場調査に基づき、厳しく一般質問

私は27日、一般質問を行いました。今回は、市民の命と暮らしを守る立場から7月30日の集中豪雨対策、3月12日の長野県北部地震対策、原子力防災対策などをとりあげ、村山市長などに対策の強化を求めました。以下は質問の概要です。

## 南魚沼市同様、農家負担ゼロに！

【橋爪】今回の集中豪雨の被災地で何度も聞いた言葉は、「同じ場所で同じ被害が繰り返されている」という言葉だ。吉川区国田で床上浸水被害にあった3軒の家は、私が知っているなかでは、今回で少なくとも3回目の床上浸水だ。大島区足谷の市道足谷入場線とその周辺の田んぼ、用水路被害も3回目と聞く。きちんとした対策をとっていないからこういうことになる。しっかりと検証し、対策を立てるべきだ。

【村山市長】災害復旧は原形復旧が原則だが、

国土交通省においても今回の復旧にあたって、被災の原因となった施設の改良なども一定の条件のもと、災害関連事業として認められることとされており、新たな対応が可能としている。市としても、被災の原因を十分検証し、地元の皆さんのご意見をお聞きしながら、国及び県と協議を重ね、原形復旧にとらわれることなく、復旧工法を決定してまいりたい。

【橋爪】今朝の新聞報道によると、南魚沼市では、農業災害復旧工事を進めるにあたり、農家負担をゼロにするため、予算を組むということだ。当市でもそのように支援できないか。

【川上農林水産部長】激甚災害ということでは一定のかさ上げもされている。個人財産ということとで一定の枠組みがある。そのなかで最善の対応をと考えている。小災害についても出来る限りの手当てをしている。いまは枠組の中でこれまでのものを含めながら対応していきたい。

【橋爪】被災者の中にはぜひもつと支援をとという強い声がある。ぜひ

ひびいてもらえないか。

【村山市長】災害は農地災害だけではない。家屋等、一定の負担をいただながら対応している。ご理解いただきたい。

【橋爪】それでは被災した人は救われない。せめて、繰り返し災害を受けた人たちにだけでも支援すべきだ。

【橋爪】今回の集中豪雨では、見逃すことのできない対応もいくつかあった。避難準備情報の発表決

定から市民に周知されるまで1時間もかかった。避難所へ行ったけれども避難所が開いていなかったところもあった。どうしてこういうことになったのか。検証すべきだ。

【村山市長】このたびの豪雨災害の対応については、市民の皆さんの安全安心を確保する上で、改善しなければならぬ課題があった。防災担当職員のスキルアップを図るため、大雨対応シミュレーション訓練等を行ったほか、情報伝達の迅速化を図るため、チェックシートの整備や役割分担の見直しなどを実施した。

【橋爪】先日、さわやか福祉財団のシンポジウムに参加し、「情報を甘く見てはならない」ことを学んだ。今回の豪雨では1万8609人に避難勧告が出たが、実際に避難したのは295人、1・5%だ。この数値は深刻だ。どう見ているか。

【馬場危機管理監】受け止め方は地域で様々だった。やや河川の水位が下がったこと、天候の回復状況がみられたことなどからの判断があったのではないかと思う。今後、的確な伝達の中で避難率の向上に努めていきたい。

## 脱原発の福島復興ビジョンに

### 村山市長も共感

【橋爪】福島県が「原子力に依存しない、安全・安心で持続的に発展可能な社会」をつくるという、復興ビジョンをまとめた。原発に近い自治体の首長としてどう受け止めているか。

【市長】このビジョンは、県民の皆さんが、復興に向けて希望の旗を掲げ、一丸となって世界に誇ることができるような復興を進めていくために策定された。原子力に依存しない社会を目指し、そのために再生可能エネルギーを飛躍的に推進するとしているほか、復興の主役は住民であり、誇りあるふるさとを再生を、一丸となって成し遂げようとする思いが込められている。まさに、人と人、人と地域、《裏面へ》



